

会 議 要 録

名 称	第 6 回 西予市中学校再編検討委員会	
事 務 局	教育委員会教育部教育総務課学校再編係	
	電 話 0894 - 62 - 6430	
	F A X 0894 - 62 - 6564	
開 催 日 時	令和 8 年 5 月 20 日(水) 18 : 58～21 : 08	
開 催 場 所	西予市役所 5 階 大会議室	
出席者	委 員	24 名 (欠席 1 名)
	その他	2 名 (寄宿舍入寮生保護者 寄宿舍元入寮生)
	事務局	教育部長 教育総務課 5 名 学校教育課 3 名 まなび推進課 2 名
議事内容(要旨)		
委員長	進行：教育総務課長	
	1 開 会	
	2 委員長あいさつ	
	3 議事	
	西予市中学校再編検討委員会設置要綱（以下、要綱）第 6 条第 1 項により、進行（議長）は委員長。	
	委員 24 人の方に出席であり、過半数以上の出席があることから、要綱第 6 条第 2 項により会議が成立することを報告する。	
	(1) 前回検討委員会の確認について	
委員長	前回検討委員会の確認についての説明を事務局に求める。	
事務局	前回検討委員会の確認について説明する。	

<p>委員長</p>	<p>中学校の再編については、効果と課題の両方があるという点をしっかりと認識したうえで、今後の検討を進めていきたい。</p> <p>特に課題については、一つひとつ丁寧に向き合いながら、皆さんと一緒に解決策を考えていきたいと考える。</p> <p>その際には、「子どもたちにとってより良い教育環境とは何か」という視点を大切にし、子どもたちがどのようにすれば学びや成長を実現できるのかという点を軸に、検討を進めていきたいと考える。</p> <p>また、学校は地域とともにある存在ですので、保護者や地域の皆さまのご理解とご協力が欠かせない。丁寧な情報共有と対話を重ねながら、安心して進めていける形を目指していきたいと考える。</p> <p>(2) グループワーク 再編候補校（1校案・2校案）・再編の時期について</p>
<p>委員長</p>	<p>配布資料について説明を事務局に求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>配布資料について説明する。</p>
<p>委員長</p>	<p>それでは、早速グループワークに移りたいと考える。</p> <p>校舎の経過年数やスクールバスの路線の資料については、ぜひ活用しながら協議を進めていただきたい。</p> <p>検討はどうしても施設などのハード面が中心になるかもしれないが、子どもたちがどのような学びを実現できるのかといったソフト面についても、ぜひ意見交換の中で視点として取り入れていただきたい。</p> <p>今回のグループワークでは、特に再編の候補として「1校案か2校案か」、そして「再編の時期」が主なポイントになる。</p> <p>1校案と2校案について、それぞれどのような理由で判断できるのかという点も含めて、議論を進めていただきたい。</p> <p>寄宿舍についての説明も含めて、全体で90分程度を予定している。登下校にかかる時間や通学距離について、どの程度が望ましいのか、例えば自宅からなのかバス停からなのかといった視点も含めて、グループの中でしっかり意見交換していただきたい。そのうえで、1校が望ましいのか2校が望ましいのか、またその判断の目安となる条件についても整理していただきたい。</p>

委員長	<p>本日お越しいただいている寄宿舍の経験者の皆さまには、グループワークの様子を見ながら、適宜タイミングを見てお話をいただく時間を設けたいと考える。</p> <p>(グループワークにより意見交換)</p>
委員長	<p>グループワークの途中ではありますが、各グループから寮整備の内容も聞こえてきておりますので、ここで一度区切らせていただき、寄宿舍について、関係者の皆さまからお話を伺う時間にしたい。</p>
事務局	<p>寄宿舍の概要について説明する。 入寮生保護者、元入寮生について紹介する。</p>
入寮生保護者	<p>保護者の立場からは「できれば中学生までは自宅から通わせたい」という思いがある。</p> <p>一方で、自身が惣川出身で、中学生の頃から大野ヶ原の生徒が寮に入って通学している状況を見てきたこともあり、「中学生から寮に入る」ということ自体には理解があった。</p> <p>現在の入寮についてもやむを得ないものとして受け止めている。</p> <p>通学距離については、学校までおおむね1時間程度であれば通わせてもよいと考えている一方で、実際に子どもを入寮させた経験から、「入寮させてよかった」という実感はある。</p> <p>理由としては、寮生活を通じて、起床や就寝、洗濯など身の回りのことを自分で行う力が身につき、その後の高校進学時に一人暮らしや下宿生活に移行する際の不安が少なくなるという点がある。</p> <p>実際に子どもは、それぞれ岡山や松山、大洲などに進学し、一人暮らしを経験している。</p> <p>学校規模についての意見では、自身が通っていた中学校が生徒数約30名の小規模校で、部活動も限られていた一方で、自身の子どもが通う学校では選択できる部活動が多い点は良いと感じている。</p> <p>一方で、学校生活という面では、小規模校の良さも強く感じており、生徒一人ひとりの得意分野を先生方が把握し、それぞれが役割を持って活躍できるように配慮されていたこと、また行事などでも全員が責任を持って関わる経験ができたことが非常に良かったと感じている。</p>

入寮生保護者

入寮することへの不安については、最初の子どもの時が一番大きかった。小学校を卒業したばかりの段階で中学校に進学し、いきなり集団生活に入ることができるのかという点が特に心配だった。

その後は、兄や姉がすでに寮生活を経験していることもあり、その様子を聞くことで安心感が生まれ、不安は少なくなっていった。さらに、入寮する子どもが増えていく中で、それまでの経験をもとに「上の子ども大丈夫だったから」と判断できるようになり、徐々に不安は軽減されていった。

初めて入寮させる保護者にとっては、不安が大きいことは十分理解しており、特に今後の再編によって新たに入寮が必要になる場合には、同様の不安を感じる方が多いのではないかと考えるが、最初の段階ではある程度仕方のない面もあるのではないかと考える。

実際に寮生活を経験した子どもからは「中学校の時は楽しかった」という声もあり、振り返ったときに良い経験だったと感じている。

通学に関しては、バスでの通学時間はおおむね1時間程度までが目安と考えている。寄宿舎の立地については、学校から1時間離れている場所にあるのは負担が大きいと感じている。親元を離れて生活するのであれば、寄宿舎は学校の近くに整備し、そこから通学できる形が望ましい。

寄宿舎の生活についてですが、男女は分かれて生活しているものの、行こうと思えば行ける構造にはなっている。ただし、実際には暗黙のルールがあり、男子は女子のフロアへは階段の3段目までしか上がらないといった決まりが守られているとのこと。用事がある場合も、その範囲で声をかける形になっており、現状ではルールは守られていて、男女が自由に行き来して遊ぶような状況はない。

平日の生活における保護者との連絡については、現在は携帯電話の使用が認められており、これは3～4年ほど前から始まった取り組み。使用時間は、寮に帰ってから20時までとされており、20時になると全員が先生に携帯を預けるルールになっている。

携帯電話が使えるようになった背景としては、部活動の中で話し合いに参加する際、寮生だけが連絡手段を持たず議論に加われなかったことがあり、その経験から学校側に要望が出されたことがきっかけ。その際、子どもたち自身が「ルールを守る」という前提で運用が始まり、現在もそのルールはしっかり

<p>入寮生保護者</p>	<p>守られている。</p> <p>西予市全体の規則上は21時まで使用可能ではあるものの、20時以降は学習時間に充てる必要があるため、現状の運用になっている。</p> <p>携帯電話については、以前は使用できない時代でも楽しく生活していたことから、必ずしも必要不可欠かどうかは一概には言えないものの、現在の子どもたちはその時間に友達との連絡やゲームなどに活用している様子がある。</p> <p>一方で、保護者への連絡はほとんど行われておらず、基本的には週末に帰宅した際に1週間分の出来事をまとめて話すスタイルになっている。帰宅後の時間の中で、日々の様子や学校生活について親子で振り返ることが、家庭でのコミュニケーションの中心になっている。</p> <p>保護者の署名が必要な書類については、学校側で配慮されており、週またぎの締め切り設定になっている。そのため、金曜日や土曜日に子どもがきちんと渡してくれれば間に合う仕組みにはなっているが、実際には月曜日の朝に渡されるケースもあり、その場合は保護者が後から学校へ届ける対応をしている。</p> <p>本日も忘れ物を届けてきた。</p> <p>進路相談についても同様で、土曜日に部活動があったりするため、金曜日は早めに休み、日曜日にしかゆっくり話す時間が取れないことが多く、十分に話し合うのが難しい状況がある。</p> <p>ただし、子どもたちは自分で考えて先生に伝えるなど、主体的に対応している面もあり、保護者としては子どもの判断を尊重している。</p> <p>家庭でのコミュニケーションについては、各家庭による差が大きく、十分に取れていない場合もあるのではないかと考える。</p> <p>思春期・反抗期の時は、週末に疲れて帰宅した際に機嫌が悪く、会話がないうまま月曜日を迎えるといったケースも実際にあった。自身の家庭では複数の子どもでそのような状況があったものの、上の子の様子を見てきたことで、下の子どもたちは比較的落ち着いて中学校生活を送れている。</p> <p>食事面については、男女比の関係もあり、食事量に違いが出ることはあるものの、足りない場合は先生に相談すれば量を増やしてもらえる。一方で、減らそうとすると、寮で食事を担当されている方から「もっと食べたら」と声をかけられることもあり、しっかり食べるよう配慮されている。そのため、食事量が不足するような心配は特にない。</p> <p>また、栄養面についても栄養士が管理しているため、健康面</p>
---------------	--

<p>入寮生保護者</p>	<p>での心配は特にない。</p> <p>好き嫌いの多い生徒については、小学校から上がったばかりの中学1年生の時期など、寮生活に慣れていない中で、苦手なものを食べられず残してしまうケースが見られるとのこと。家庭では好きなものを中心に食べてきた子どもも多いため、その対応は家庭での指導も重要になってくると考える。</p> <p>子どもが入寮して良かった点は、まず学習時間が確実に確保されている点。現在は2時間の学習時間が設けられており、1時間で課題が終われば無理に2時間続けなくてもよい仕組みになっている。以前は強制的に2時間取り組む形だったようですが、現在は柔軟に運用されているとのこと。</p> <p>また、わからないことがあればすぐに先生に質問できる環境が整っていることや、規則正しい生活が送れる点も大きな利点である。さらに、集団生活を通じて協調性や団体行動の力が身につくという点も利点である。</p> <p>一方でデメリットとしては、日々の出来事をその都度フォローできない点。例えば、週の初めに嫌なことがあっても、その気持ちを抱えたまま過ごし、週末にまとめて保護者に話す形になるため、その場その場での適切な助言やフォローができないことに難しさを感じている。</p> <p>また、週末に1週間分の出来事をまとめて聞き、その中でまとめて注意や助言を行うことになるため、子どもにとっては負担になる面もあるのではないかと考える。疲れて帰ってきたタイミングで指摘を受け、その後また月曜日から新たな1週間が始まるという流れは、子どもにとって精神的にしんどい部分があるのではないかと感じている。</p> <p>日々細かく関わるのが難しい分、どうしても週末にまとめた関わりになってしまうため、その点が寄宿舎生活における一つの課題だと捉えている。</p>
<p>元入寮生</p>	<p>寄宿舎を利用するか、バスで通学するかについては、学校までにかかる時間を基準に考えるのがよいのではないかと考える。目安としては、片道で1時間以上かかる場合は、寄宿舎を利用した方がよいのではないかと感じている。</p> <p>実際に自身の場合は、自宅から寄宿舎まで約1時間15分かかっており、その点も判断の基準になっている。</p> <p>入寮に対する不安については、あまり感じなかった。その理由として、姉が先に入寮していたことによる安心感があったこと、また地域的に「中学生になったら寮に入るのが当たり前」</p>

元入寮生	<p>という認識があったため、自然に受け入れていたという背景があった。</p> <p>一方で、負担に感じていた点としては、通学にかかる時間と生活のハードさである。特に月曜日の朝は5時起きとなり、その後、1時間以上かけて移動することや、運動部に所属していたため、部活動で疲れた体のまま、さらに長時間の移動をすることが重なり、疲れが抜けないまま蓄積していくことが大変だった。</p> <p>寄宿舎での生活は、寮母さんや教員が当番制で常駐しており、生活の中で困ったことがあれば、いつでも相談できる環境が整っていた。</p> <p>食事については、調理員の方が作っており、食堂で寮生と寮母さんが協力して配膳し、その後みんなで食事をとる形になっていた。好き嫌いについては、自身も苦手な食べ物があったものの、他の寮生に手伝ってもらいながら対応していた。</p> <p>苦手だったキノコも日常的に提供される中で、少しずつ食べられるようになった。</p> <p>食事の質や量については十分に充実しており、全体として満足していた。</p> <p>また、生活の中での工夫として、週に2回程度「おやつの時間」が設けられており、その日は通常の2時間の学習のうち後半1時間を使って、寮生同士で集まり、おやつを楽しむ時間になっていた。おやつについては実費負担で、月ごとに一定の金額を支払っていた。</p> <p>このように、毎日同じ生活ではなく、おやつの時間などがあることでメリハリのある生活ができていた。</p> <p>実家への帰省については、基本的に休日のみで、月曜日の朝にバスで寮に入り、金曜日の夜に帰宅する生活だった。休日に部活動や行事がある場合は、バスでの送迎が行われていた。</p> <p>部活動については、生徒それぞれが異なる部に所属しているため、送迎の時間が部活動ごとに異なり、開始時間に合わせて早めに移動したり、終了時間が遅い生徒に合わせて待つことがあった。</p> <p>実際に、自身が遅くなり、他の生徒を1時間以上待たせてしまった経験もあり、その点については申し訳なく感じた。</p> <p>また、実際に寮生活を送る中で不便に感じた点として、一つ目は、保護者の同意や署名が必要な手続きが、基本的に休日にしか行えない点。多くの場合は締め切りを週明けに調整してもらっていたものの、提出を忘れた場合には保護者に後から対応</p>
------	--

元入寮生	<p>してもらいが必要があり、不便さを感じる場面があった。</p> <p>二つ目は、平日に自由にテレビを視聴できない点。テレビが見られる時間は、夕方の帰寮後の時間帯や食事中、週2回のおやつ時間に限られており、学習時間と重なる番組は視聴できない状況だった。また、複数人で一台のテレビを共有するため、見たい番組が他の生徒と重なった場合には譲る必要がある、自分の見たい番組を見られないことがあったという点も、不便に感じていた。</p> <p>寮生活の中で不便というより、悩みとして感じた点として、寮生同士の間人間関係があった。一人ひとり性格が異なるため、どうしても相性が合わないことやトラブルが生じる場合があり、同じ寮で長期間一緒に生活する必要がある中で、その点に悩むこともあった。</p> <p>そのような課題もある一方で、寮生活を通して良かったと感じる点も多くあった。特に、毎日決まった学習時間が確保されていることにより、自然と学習習慣が身についたという点が大きなメリットとして挙げられる。</p> <p>その結果、高校で一人暮らしを始めた後も、勉強に対して苦手意識を持つことなく取り組むことができたと感じており、寮での学習環境が大きく影響しているのではないかと考える。</p> <p>また、困ったことがあった際には、寮母や教員にすぐ相談できる体制が整っており、安心して生活もできた。</p> <p>最後に、地元を離れて寮生活を送ることについては、子ども本人や保護者にとって不安が大きい面もあると思われるものの、実際には同級生約50人の中で多くの経験を積むことができ、貴重な成長の機会になったと考える。</p> <p>学校規模については、少人数がよいのか、一定規模以上が良いのかという点についてご意見がありましたが、自身としては、一定規模のある学校の方が良いのではないかと感じている。</p> <p>その理由として、まず部活動においては、生徒数が多いほど仲間同士で切磋琢磨でき、自分の技術向上につながる環境があるという点がある。</p> <p>また、学校生活においても、分からないことがあった際に同級生に気軽に相談できる環境があり、一人で抱え込まずに学びを深めることができたという経験があった。</p> <p>さらに、テストの順位については、公表の是非について様々な意見があるものの、自身としては、あえて順位を出すことで周囲と比較し、自分の学力の位置を把握できるため、目標意識</p>
------	---

元入寮生	<p>や向上心が高まり、日々の学習意欲の向上につながったと感じている。</p> <p>自身は小学校からの同級生がいない環境でもあったため、そのような中で一定規模の集団の中で学ぶことに意義を感じていた。</p> <p>また、6年生になると「一番でないといけない」といった雰囲気自然と生まれていた。実際には明確に言われていたわけではないものの、周囲の空気としてそういったプレッシャーを感じていた。</p> <p>具体的には、自身の学年の下に運動能力の高い児童がいたことで、かけっこや体力測定（シャトルランなど）においてその児童に及ばない場面があり、それによって間接的にしんどさを感じることもあった。</p> <p>一方で、中学校で生徒数が増えたことで、運動が得意な生徒もいれば苦手な生徒もいるという多様な環境になり、「必ず一番でなければならない」といった雰囲気が薄れたと感じた。</p> <p>その結果として、単純な順位や結果だけではなく、「どれだけ頑張っているか」という過程も含めて評価されるような環境が良いと感じた。</p> <p>女子の場合に見られがちな、例えば「グループでないと行動しにくい」といった傾向についても、自身が通っていた高校は1学年に8～9クラスある大規模校であり、そのような環境では「一人で行動しても周囲が気にしない」という雰囲気があった。</p> <p>そのため、無理に集団に合わせる必要がなく、一人でも自然に行動できるようになり、結果としてさまざまな価値観に触れることができた。</p> <p>こうした経験から、少人数の良さを理解しつつも、一定規模の生徒数がある環境の方が、多様な人間関係や価値観に触れることができる点で望ましいのではないかと感じている。</p> <p>今後の子どもたちには、多くの同級生がいる環境の中で、さまざまな経験を積みながら学んでほしいと考える。</p>
委員長	<p>せっかくの機会でもありますので、時間は限られておりますが、ご質問のある方はぜひお願いしたい。</p>
委員A	<p>感染症、特にインフルエンザなどが流行する時期の対応について、寮生活においては、自宅に帰っているタイミングで発症する場合もあれば、週明け（月曜・火曜頃）に寮で発症するケ</p>

委員A	<p>ースもあると思われるが、そのような場合、どのように対応しているのか。</p>
入寮生保護者	<p>発熱した場合は基本的に保護者が迎えに行き、自宅に連れて帰る対応をしている。</p> <p>けがの場合は、迎えに行って病院で受診した後、そのまま学校へ戻ることも可能ですが、発熱など風邪症状がある場合は、一度自宅で療養させる形を取っている。</p> <p>そのため、例えば月曜日に登校した後に発熱した場合でも、学校や寮から連絡があり、保護者が迎えに行くケースがある。回復した後に、再度寮へ戻ってくるという流れになる。</p>
委員長	<p>お二人については、グループワークの途中でも各グループを回っていただいておりますので、引き続きご質問等があれば、その都度お声掛けいただき、お答えいただければと考える。</p> <p>それでは、後半のグループワークに移る。</p> <p>先ほどのお二人のお話を通して、寄宿舍についての理解も深まったのではないかと、私自身も大変参考になった。</p> <p>その内容も踏まえたいうえで、引き続きグループワークを進めていただきたい。</p> <p>本日のまとめの発表では、「1校案か2校案か」という点について、グループとしての意見を整理して発表していただくことになる。そこを最終的なゴールとして議論を進めていただきたい。</p> <p>時間の目安としては、まず20時40分から45分頃までを予定している。それを目安に進めていただきたい。</p> <p>(引き続きグループワークにより意見交換)</p>
委員長	<p>「1校案」「2校案」については、必ずしもグループとして一つにまとめていただく必要はない。</p> <p>意見がまとまるようであれば、その内容をご発表いただき、まとまらない場合には、それぞれの案についての考え方や理由を分けてご発表いただきたい。</p> <p>(引き続きグループワークにより意見交換)</p>
委員長	<p>各グループで、話し合われたことを発表していただきたい。</p>

<p>グループ①</p>	<p>まず1校案については、将来的なことを考えると、1校に再編・統合した方がよいのではないかという意見が出ていた。</p> <p>ただし、その場合の課題として、通学時間の問題や、統合した際の立地における交通安全の確保などについて、不安があるという声が上がっていた。</p> <p>一方で2校案については、現時点の生徒数を踏まえると、2校体制であれば一定の規模が確保でき、学級編成についても当面は維持可能であること、また通学時間の面でも対応しやすいのではないかという意見があった。</p> <p>そのため、まずは2校でスタートし、その後段階的に再編を検討していくという考え方が、多くの意見として出ていた。</p> <p>また、2校案を採用した場合の具体的な課題として、どの校舎を活用するかという点についても議論があった。城川中学校と野村中学校のどちらを使うかについては、寄宿舍との関係から野村中の活用がよいのではないかという意見がある一方で、校舎の経過年数を考えると城川中の方がよいのではないかという意見もあった。</p> <p>さらに、生徒数の分布を考えると野村中の生徒の方が多いため、城川中へ移動することの負担についても意見が出され、どちらがよいかについては結論には至らなかったものの、さまざまな観点から検討が必要であるという認識が共有された。</p> <p>全体としては、現段階では2校案を基本としつつ、将来的な再編も見据えて検討していく方向で、おおむね意見がまとまった。</p>
<p>グループ②</p>	<p>1校案についてですが、設置場所に関しては「市の中央付近が良いのではないか」という意見や、「地元の中学校を活用してほしい」という意見が出ていた。</p> <p>通学時間については、配付資料ではバス停などを基準にしているものの、実際には自宅からの距離で考えるべきであり、「おおむね1時間程度が限界」との認識で、それ以上かかる場合は寄宿舍の活用が必要ではないかという考え方が共有された。</p> <p>また、課題への対応としては、通学時間の問題を根本的に解決する案として、全寮制という意見も出た。</p> <p>再編の時期については、令和13年を目安としつつ、「可能であれば早い方が望ましいのではないか」という意見があった。</p>

<p>グループ②</p>	<p>次に2校案については、1校案よりも賛成意見が多く見られた。配置としては、「明浜・三瓶・宇和で1校」「野村と城川のどちらかに1校」といった意見が出され、大規模校と比較的小規模校の両方ができる形になり、その場合に校区に関係なく生徒が学校を選べる仕組みがあれば良いのではないかという意見も出された。</p> <p>通学面では、国道沿いの安全性への懸念や、新たに校舎を整備する必要性についての意見もあった。特に1校案に比べると、通学負担が軽減される点から、2校案が望ましいのではないかという意見が強くありました。</p> <p>通学時間の目安については、自宅から約1時間程度が基準になるのではないかと意見があった。</p> <p>課題と解決策の点では、小規模校の場合の部活動の選択肢の少なさや、寄宿舎の必要性についての意見が出された。また、寄宿舎運営にあたっては教職員の負担も大きいため、民間委託の可能性や、それに伴う費用面の検討も必要ではないかという指摘があった。</p> <p>再編の時期については、2校案の場合でも、2校同時に再編する方が望ましいという意見や、複式学級にならないよう配慮しながら進めるべきという意見が出された。</p> <p>全体としては、1校案・2校案いずれにもメリット・デメリットがあり、一概に結論は出せないものの、引き続き丁寧に検討していく必要があるという認識でまとまった。</p>
<p>グループ③</p>	<p>1校案と2校案を並行して検討した結果、最終的には1校案が望ましいのではないかという結論にいたった。</p> <p>校舎については、現在の宇和中学校を改築して活用する案が挙げられ、「最も無駄が少ないのではないか」という理由から支持されていた。</p> <p>通学時間については、「バスに乗ってから1時間程度」を目安とすることでまとまった。</p> <p>一方で、学校規模が大きくなることによる課題として、不応を起す生徒が出てくる可能性が指摘された。この点については、現在設置されている校内サポートルームの充実や、人員配置を強化することで対応していくべきではないかという意見が出された。</p> <p>また、寄宿舎については、現状では教職員への負担が大きいことから、市としてその負担軽減について検討する必要があるという意見が出た。</p>

<p>グループ③</p>	<p>再編の時期については、令和13年が一つの目安として適当ではないかとされた。さらに、仮に2校案で進めたとしても将来的には1校に再編される可能性を考えると、この段階で1校に統合するのも一つの考え方ではないかという意見で、グループとしてはまとまった。</p>
<p>グループ④</p>	<p>グループ4については、当初は1校案と2校案の両方について意見が分かれていたが、最終的には2校案が望ましいという結論に至った。</p> <p>その理由として大きかったのは、やはり通学時間の負担。どの程度なら許容できるかについて議論した結果、「1時間以内」という目安は出たものの、実際には往復で2時間以上となり、さらに自宅までの移動も含めると、想像以上に大きな負担になるのではないかという意見が多く出された。</p> <p>そのため、通学負担を考慮すると2校案が現実的ではないかという判断になった。</p> <p>また、1校案とした場合には、校舎の改築規模が大きくなりすぎ、結果として無駄が生じるのではないかという意見もあった。</p> <p>2校案において、どの校舎を使用するかについては、最終的な結論には至らなかったものの、野村中学校の老朽化と城川中学校の比較的新しさという観点から、安全面では城川中の方が良いのではないかという意見が出された。</p> <p>一方で、野村地域の保護者の立場からは、地域内でも地理的な条件が異なり、城川に近い家庭もあれば、別の地域に近い家庭もあるため、通学先を選択できるような仕組みがあればよいのではないかという意見もあった。</p> <p>再編の時期については、複式学級になることは避けるべきであり、学習面への影響も懸念されることから、複式になる前には統合を進める必要があるのではないかという意見が示された。</p>
<p>委員長</p>	<p>グループ1、2については最終的な結論は保留しつつも主に2校案寄りの意見、グループ3は1校案、グループ4は2校案という形で整理された。</p> <p>まず1校案については、望ましい理由として主に4つの視点で意見が出された。</p> <p>1つ目の「場所・選定理由」については、将来的な視点や西</p>

<p>委員長</p>	<p>予市の中心に位置することを考慮して判断するべきではないかという意見があった。</p> <p>2つ目の「通学時間・距離」については、1校案・2校案のいずれにおいても共通して、「自宅からおおむね1時間程度」が一つの目安ではないかという認識が示された。</p> <p>それ以上になる場合は、寄宿舍の活用が必要ではないかという考え方も共有された。</p> <p>また、この時間の捉え方について、「自宅からか」「バス乗車後なのか」といった基準の違いがあることも確認され、今後整理が必要なポイントとして挙げられた。</p> <p>3つ目の「課題と解決策」については、全寮制といった考え方のほか、校内サポートルームの充実、寄宿舍の整備・充実、さらには教職員の負担軽減といった点が主なキーワードとして出された。</p> <p>4つ目の「再編時期」については、令和13年度を基本としつつも、「できるだけ早く進めた方がよい」という意見があったという整理である。</p> <p>次に2校案についてですが、まず「配置・選定理由」では、宇和中と野村中・城川中のどちらかを利用する配置や、段階的に再編を進めていくことが望ましいのではないかという意見があった。</p> <p>どの校舎を使用するかについては、寄宿舍の有無や校舎の耐用年数、移動負担などを総合的に判断する必要があるとの認識があった。さらに、学校を選択できる仕組みがあればよいのではないかという意見も出された。</p> <p>「通学時間・距離」については、こちらも同様に「自宅から1時間程度」が目安とされ、それ以上になると通学負担が大きという認識が共有された。</p> <p>「課題と解決策」については、部活動の選択肢の確保や、寄宿舍運営に伴う教職員への負担が課題として挙げられ、必要に応じて民間委託も含めた検討が必要ではないかという意見があった。</p> <p>また、学校規模に関連して、複式学級になることの影響が懸念されており、そのような状況になる前に再編を進めるべきではないかという点も重要な視点として挙げられた。</p> <p>最後に「再編時期」については、2校案の場合は同時並行で進めることや、複式学級を避けるタイミングを意識して判断する必要があるのではないかという意見で整理された。</p>
------------	--

<p>委員長</p>	<p>全体として、1校案・2校案のいずれにもメリットと課題があり、特に通学時間、寄宿舎のあり方、学校規模、教職員の負担といった点が今後の重要な検討課題として共有された。</p> <p>寄宿舎についてお二人のお話を受けて、所感として意見がある。</p> <p>まず、保護者の立場からのお話については、子どもを一人で生活させることへの不安や心配は非常に共感できるものであり、多くの保護者が同様に感じる部分ではないかと受け止めた。</p> <p>また、印象的だった点として、保護者と生徒本人で考え方に違いがあるという点が挙げられる。その中で、学校や先生、友人との出会いが子どもにとって非常に重要な意味を持つのではないかと考える。教育環境の中で「誰と出会うか」という点が大きな要素になるのではないかと考える。</p> <p>さらに、子どもを取り巻く環境として、保護者や大人側の不安をどのように解消していくかも重要な課題であり、負担の軽減も含めて、今後の検討におけるポイントになるのではないかと考える。</p> <p>一方で、生徒本人の視点からは、どのような力が身につくのかという点について、学習習慣の確立、自律性、協調性といった点が重要であると考え。これらは簡単に身につくものではないものの、寄宿舎のような環境の中で育まれる側面があるのではないかとこの点について、改めて理解が深まった。</p> <p>本日のまとめとしては十分ではない部分もあるかもしれないが、以上をもって総括とし、グループワークは終了とする。</p> <p>本日取りまとめた内容については、答申に反映していく。</p> <p>(3) その他</p>
<p>委員長</p>	<p>その他について、事務局に説明を求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>その他（次回開催予定）について説明する。</p> <p>7月開催予定日（2日）、8月開催予定日（5日）について説明する。</p> <p>（日程調整）</p>

委員長	<p>次回検討委員会を、令和8年6月17日 水曜日 19時開始 西予市役所5階大会議室とする。</p>
事務局	<p>前回の検討委員会で提案した「中学生の声を活かした学校再編ワークショップ」についてですが、第1回のワークショップについては、一定の効果が得られたと考えている。</p> <p>第2回の開催についてですが、各学校の理解を得たうえで中学生の意見を集約し、参加する生徒のスケジュール調整を行う必要があるため、早くても8月～9月頃の開催になる見込みである。</p> <p>一方で、検討委員会のスケジュールとしては、7月の会議から、答申内容に対する意見を取りまとめていく段階に入る予定となっており、仮に第2回のワークショップを開催したとしても、その内容を検討委員会にフィードバックする時間的余裕がない状況である。</p> <p>このため、第2回の中学生ワークショップの開催については、見送る判断とした。</p> <p>ただし、検討委員会で協議した内容については、中学生の意見がどのように反映されているのか、また中学生がどのように受け止めるのかという点が重要であり、今後、再編計画案がまとまった段階などで、中学生に対して何らかの形で内容をフィードバックする機会を設けたいと考えている。ご理解とご協力をお願いしたい。</p>
委員長	<p>事務局が説明した内容について、ご理解をお願いしたい。</p> <p>4 その他</p> <p>委員を交代する場合は、教育総務課までご連絡いただきたい。</p> <p>5 閉会</p> <p>閉会あいさつ</p> <p style="text-align: right;">終了 21:08</p>
副委員長	
備考	